



プロ野球ロッテへの入団を、母校の八学光星高で中村良寛校長(右)や仲井宗基監督(中央)に報告した八木彬=15日

10月のプロ野球ドラフト会議でロッテから5位指名を受けた八木彬(三菱重工West)が15日、母校の八学光星高を訪れ、中村良寛校長や仲井宗基監督にプロ入りを報告し、1年目となる来季の抱負を語った。

高校卒業後、6年ぶりに母校を訪れたという八木。「高校2年時に、夏の甲子園大会の準々決勝で登板したことが心に残っている」と思い出を語った。仲井監督は「高校時代から将来性はピカイチだった。3年時に腰にけがを負ったが、本来なら卒業後すぐにプロ入りしてほしかった」と振り返った。

中村校長は「学校を挙げて応援している。早く1軍で、(同校出身の)先輩の田村(龍弘)とバッテリーを組んでいる姿を見たい」とエールを送った。

八木は来年1月7日に入寮し、8日からの新人合同自主トレーニングに参加する。

(林泰輔)

## 八木(光星高) 母校にロッテ入団報告

# 「しっかり結果残す」

### 一問一答

八学光星高出身で大学、社会人チームを経て、プロ野球ロッテ入団を決めた八木彬。最速152kmの直球を武器と

する右腕は、卒業以来6年ぶりに訪れた母校で、高校時代の3年間を過ごした八戸への思いや、来季の抱負などを語った。(聞き手・林泰輔)

高校卒業以来6年ぶりで懐かしい気持ちだ。八戸は第二の故郷と思っている。仲井監督たちに迎えていただき、プロ入りを報告することができて良かった。

「プロ入りを控えている。社会人を経ての入団なので、プロ入りを控えている。悔しい思いは出たが、3年夏の青森大会で負けてしまったことが強く印象に残っている。負けた瞬間、自分がマウンドにいなかったことが悔しかった。それを糧に、今までやってこられたと思う。」



プロ1年目に向けて「即戦力になる」を目標に掲げた八木彬=15日、八戸市内

### 略歴

やぎ・あきら 1997年5月生まれ。和歌山県出身。右投げ右打ち。八学光星高では140cm超の直球を武器に、2014年夏の甲子園大会準々決勝で登板するなど活躍し

た。東北福祉大を経て、20年に三菱重工名古屋に入団。21年にチーム再編により三菱重工West所属となった。最速152kmの直球が武器のパワーピッチャー。182cm、98kg。

光星の名を背負っている。「八戸はすごい」と皆に思ってもらえるようにしたい。期待してくれる市民の皆さんのために頑張る。

活躍を期待する八戸市民にメッセージを。  
「プロ1年目の目標は。任せられた場面でしっかり結果を残したい。威力のある直球や落差のあるフォークなどを生かし、自分の投球ができるよう頑張りたい。」